

「長州遠く備中松山に及ばず」

安政五年(一八五八)、長周藩士日下玄瑞は、桔梗河原で山田方谷率いる備中松山藩農兵隊一二〇〇名の洋式調練の様子を参観し、思わず周囲にもらした一言は、「長州遠く備中松山に及ばず」でした。玄瑞は直ちに江戸へ行き、洋式兵法、銃陣を学び、同じ長周藩士高杉晋作に伝え、晋作は創意工夫を重ね、長州奇兵隊を組織しました。

幕末奇兵隊は二度にわたり、備中松山を窺いましたが反転して帰国しました。何が奇兵隊に去来したか想像できます。日下玄瑞は元治元年(一八六四)、禁門の変(蛤御門の変)で自刃しました。弱冠二四才でした。